

タイの高等教育機関の国際化  
—近年の高等教育政策と「アジア高等教育圏」の展開—

バンコク研究連絡センター

臼井 真希

## 1. はじめに

近年、日本においては高等教育における国際化が大学改革の中でも重要事項として広く関係者に認識されるようになってきている。文部科学省は大学の国際化支援事業として、留学生受入促進強化事業である「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル 30:G30)」(2009 年度—2013 年度)や、総合的に国際競争力を高める大学改革を断行し、世界大学ランキングトップ 100 を目指す大学を支援する「スーパーグローバル大学創生支援事業(SGU)」(2014 年度—)等を実施し、政策に主導される形で大学の国際化が進められている。

グローバル化が急速に進んでいる世界の高等教育情勢の中、高等教育の国際化は日本のみでなく全世界的な潮流と言えるであろう。

一方で、アジアでは国境を越えた高等教育のネットワーク形成の動きが活発になっており、各国政府や地域機構によって作られた教育ネットワークや留学プログラムが域内の学生や教職員のモビリティを促進し、高等教育のネットワーク、「アジア高等教育圏」が誕生しているとの指摘がある<sup>1</sup>。

例えば、筆者が勤務する JSPS バンコク研究連絡センターが所在するタイは、ASEAN 大学連合(AUN)、アジア太平洋大学交流機構(UMAP)、東南アジア国際学生モビリティプログラム(AIMS)、大メコン圏大学コンソーシアム(GMS-UC)など、複数の国際的高等教育ネットワークに属している。

本レポートでは、タイでは、高等教育の国際化についてどのような政策が取られてきたかを確認しながら、タイ及びタイの高等教育機関が参加している国際ネットワークにはどのようなものがあるのか概観しつつ、タイにおける高等教育の国際化の現況について考察していきたい。

第 2 章では、近年のタイ高等教育政策における国際化について、特に留学生の受入動向に着目しながら確認していく。第 3 章では、タイ及びタイの高等教育機関が参加している国際的な高等教育組織やネットワーク及びプログラムにはどのようなものがあるのか、その概要を見ていく。また、このような国際的な取り組みについて個々の大学はどのような認識をもっているのか、タイのメーファールアン大学の国際関係担当副学長、Dr. Nantana Gajaseni にインタビューを行うことができた。第 4 章ではこのインタビューを掲載する。第 5 章でまとめと考察を述べたい。

## 2. 近年の高等教育政策と国際化の現状

タイにおいて高等教育の国際化が本格的に政策として取り上げられたのは 1990 年に制定された第 1 次 15 カ年長期高等教育計画(1990 年—2004 年)からであるとされる<sup>2</sup>。本章では、まずはタ

<sup>1</sup> 杉村美紀「アジア高等教育圏のダイナミクス」リクルートカレッジマネジメント, 204 号 May-Jun, 2017

<sup>2</sup> 鈴木康郎、カンピラパーブ・スネート「高等教育のマス化と ASEAN 統合に向けた国際的地位の向上を目指して タイの高等教

イの高等教育がいかに展開していったかを見た後、近年の高等教育政策における国際化について、特に留学生の受入動向に着目しながら確認していく。

## 2-1. 高等教育の展開

タイの高等教育の歴史は1917年のチュラロンコン大学の設立に始まると言える。その後、1934年にタマサート大学、1943年にカセサート大学、マヒドン大学と、バンコクを中心に国立大学が設置されていった。

1960年代になると、地方でも国立大学の整備が始まる。タイの北部、東北部、南部の地方大学の雄と言える、チェンマイ、コンケン、プリンスオブソンクラー大学などが設置されたのがこの時期である。また、1969年の私立大学法の制定により、私立専門学校の大学への格上げがあり、さらに大学の拡大が進んでいった。

1970年代には無試験で、一般の大学と比較して非常に安価な授業料で入学できる「オープン大学」が設置され、高等教育を受ける機会は大幅に拡大した。

1990年代には、各地にあった教員養成学校が地域の高等教育ニーズに応えるため、地域総合大学・ラジャパット大学へと昇格された。さらに全国に39校あった職業技術学校のラジャマンガラ工科大学が2005年に9校に統合され、ラジャマンガラ工科大学へと昇格された。

2008年にはタイの高等教育機関数は146機関を数え<sup>3</sup>、学士・準学士・オープン大学の全てを含んだ高等教育在籍者は約220万2,400人、高等教育学齢人口(18~21歳)の高等教育機関在籍率は52.7%に達した。

このように、2000年代には高等教育機関は現在と同じように整備が整い、国民が高等教育を受ける機会も拡充され、タイにおいて高等教育が一部のエリートのものではなく大衆化したと言える。

なお、2019年2月時点のタイ高等教育機関数は、自治国立大学426校、非自治国立大学11校、ラジャパット系大学38校、ラジャマンガラ工科大学9校、私立大学72校の計156機関<sup>5,6</sup>となっている。

---

育政策」リクルートカレッジマネジメント, 164号 Sep-Oct, 2010

<sup>3</sup> 堀田泰司, ACTS(ASEAN Credit Transfer System)と各国の単位互換に関する調査研究「第3節 タイ 2.単位制度に関する規定の概要」<[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/30347/20141016174357806944/ACTS\\_2-3\\_103\\_Thailand.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/30347/20141016174357806944/ACTS_2-3_103_Thailand.pdf)> (2020年2月1日アクセス)

<sup>4</sup> 国立大学よりも大学運営の自主性が認められる大学で、日本の国立大学法人に近い。

<sup>5</sup> 2019年2月時点の高等教育所管官庁は教育省(Ministry of Education)の高等教育局 (Office of the Higher Education Commission: OHEC)。2019年5月、高等教育局は教育省から別れ、科学技術省やタイの主要な資金配分機関であるタイ学術会議(National Research Council of Thailand: NRCT)等とともに新たに高等教育科学研究イノベーション省(The Higher Education, Science, Research and Innovation Ministry: MHESI)に改組された。

<sup>6</sup> OHECの公開している「List of Accredited Thai Higher Education Institutions (As of February 2019)」参照<[http://inter2.mua.go.th/documents/Thai\\_HEIs.pdf](http://inter2.mua.go.th/documents/Thai_HEIs.pdf)> (2020年1月31日アクセス)

## 2-2. 高等教育政策における国際化

タイの高等教育において、本格的な国際化政策の出発点と言えるのが、第1次15カ年長期高等教育計画(1990-2004年)である。このなかで、高等教育改革の重要な理念として平等性、効率性、卓越性、国際化、民営化が掲げられ、国際化に関連する提言として①言語・経営・コンピュータなど、国際社会で活躍できるような資質を獲得させること、②学士・大学院レベルにおいてインターナショナルプログラム<sup>7</sup>を導入・推進すること、③一部専門分野において海外の高等教育機関と同等のカリキュラムを開設すること、が打ち出された。また、この後に制定された、第7次高等教育開発計画(1992-1996年)においては、アジア人留学生の積極的受入、奨学金や研修プログラムを通じた近隣アジア諸国への教育援助体制の構築が具体的な目標として示された<sup>8</sup>。

第1次15カ年長期高等教育計画が示された90年代後半から2000年代初頭にかけては1997年に起きた経済危機の影響により、行政や経済の一層の効率的な運営が求められ、国営企業の民営化等の動きが活発になっていった時期であった。国の再興、安定化、国際競争力の向上にむけた教育改革が喫緊の課題となり、その結果、教育の基本内容を示した1999年国家教育法が制定されることとなった<sup>9</sup>。高等教育改革の内容も大学における自治的管理運営や能力主義の導入を奨励するもので、この時期、国立大学の自治大学化の動きも活発になっていった<sup>10</sup>。

## 2-3. インターナショナルプログラムの整備と留学生の受入拡大

第1次15カ年長期高等教育計画で提言された、インターナショナルプログラムの導入・推進の方針は第2次15カ年長期高等教育計画(2008-2022年)でも受け継がれていった。インターナショナルプログラムの開講数は1993年には27であったが、2005年には520<sup>11</sup>、2017年には769<sup>12</sup>を数え、急速に増加していった。

タイでは、インターナショナルプログラムは外国人留学生のみではなく、タイ人学生も同様に受け入れており、英語による高等教育に対する国内タイ人学生の需要に応じている。2015年のキングモンクットトンプリ工科大学、コンケン大学、タマサート大学、チュラロンコン大学及びマヒドン大学のインターナショナルプログラムでは、所属学生の9割がタイ人学生であったという<sup>13</sup>。インターナショナルプログラム整備の背景には、高等教育内容そのものの国際化を目指す意図

<sup>7</sup> タイでは英語による授業のみで学位取得可能なコースを「インターナショナルプログラム」と呼んでいる。

<sup>8</sup> 鈴木康郎、カンピラパーブ・スネート「高等教育のマス化とASEAN統合に向けた国際的地位の向上を目指して タイの高等教育政策」リクルートカレッジマネジメント、164号 Sep-Oct, 2010

<sup>9</sup> 独立行政法人大学改革支援学位授与機構「タイ高等教育の質保証 ブリーフィング資料(2019年3月 NIAD-QE 評価事業部国際課 作成)」<[https://www.niad.ac.jp/media/008/201904/2019%20BriefingonThailandQAinHE\(JP\)-7415e9d45246d229c7368eb8321df1b8.pdf](https://www.niad.ac.jp/media/008/201904/2019%20BriefingonThailandQAinHE(JP)-7415e9d45246d229c7368eb8321df1b8.pdf)> (2020年1月23日アクセス)

<sup>10</sup> 村田翼夫「高等教育改革の比較研究-法人化・民営化を中心として-タイにおける国立大学法人化の動向と問題点」比較教育研究大30号, 2004

<sup>11</sup> 森康真「タイ国・高等教育機関における「国際プログラム」の概況」国際研究論叢28(1), 2014, p.166

<sup>12</sup> Office of the Education Council, Ministry of Education, Kingdom of Thailand” Education in Thailand 2018”, OEC Publication No. 25/2019 ISBN 978-616-270-201-3, 2018, p.200,201

<sup>13</sup> 轟裕美「タイの大学のインターナショナルプログラム-非英語圏におけるインターナショナルプログラムの課題と展望-JSPS

と、外国人留学生の受け入れ拡大という双方の面があると言える。

留学生の受入数に目を向けてみると、1999年には1,882人であったが、2002年4,092人、2005年4,334人、2008年10,915人、2011年20,155人、2015年13,628人と、2011年をピークに2015年には漸減しているものの、めざましい増加が見られる。<sup>14</sup>(表1参照)

また、2017年の留学生総数16,910人の出身国トップファイブは1位から中国、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、ラオスとなっている(図1参照)。

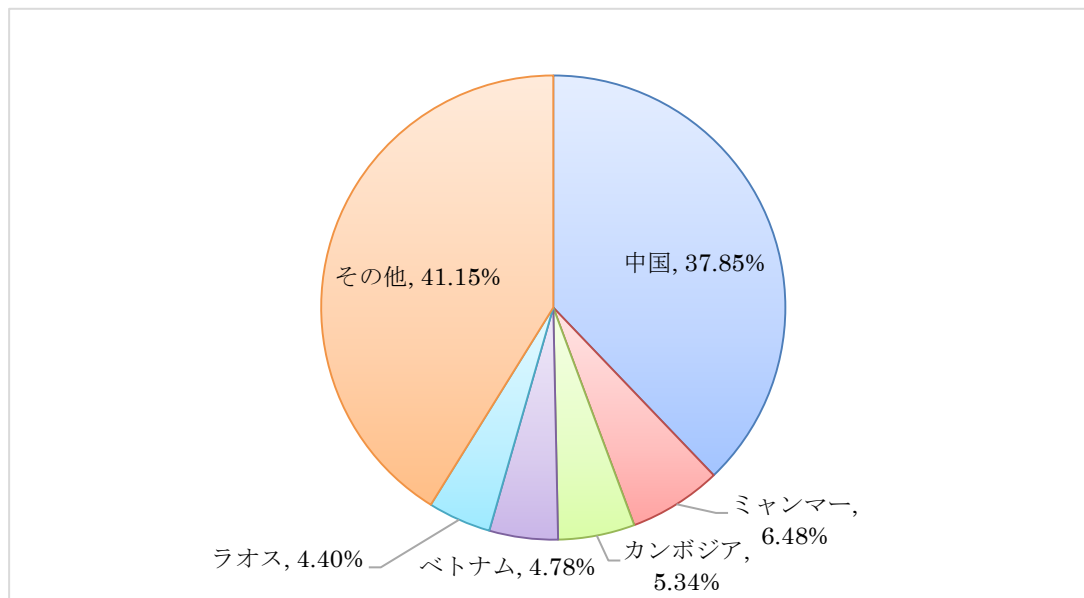
第7次高等教育開発計画以降の目標の通り、アジア、特に中国及び近隣の東南アジア諸国から留学生受け入れを進めており、今やタイは留学生受入国として急伸していることが確認できる。

表1. タイの地域別留学生受け入れ数の推移

	1999	2002	2005	2008	2011	2015
Africa	6	16	56	140	454	405
North America	133	151	360	638	913	440
Caribbean and Central America	2	3	2	20	198	-
South America	1	2	9	15	33	-
Asia	1,580	3,054	3,547	9,213	17,224	11,925
Europe	143	133	332	834	1,191	745
Oceania	17	13	24	55	74	113
Total	1,882	4,092	4,334	10,915	20,155	13,628

出典:Internationalization of higher education and student mobility in Japan and Asia, 2018, P.23, Table11 を転載

図 1. 2017 年出身国別受け入れ留学生比率



出典:Office of the Education Council, Ministry of Education, Kingdom of Thailand” Education in Thailand 2018”のデータをもとに筆者が作成

### 3. タイ及びタイの高等教育機関が参加する高等教育ネットワーク

本章では、タイ及びタイの大学が加盟・参加している国際的な高等教育関係組織や交流ネットワークにはどのようなものがあるのか、その概要を確認していく。

#### 3-1. 東南アジア教育大臣機構・高等教育開発地域センター

(Southeast Asian Ministers of Education Organization Regional Centre for Higher Education and Development: SEAMEO RIHED) <sup>15</sup>

##### 【組織】

東南アジア教育大臣機構 (SEAMEO) <sup>16</sup>の下部組織の一つで、東南アジア地域の高等教育開発を専門とする地域センター。タイ、バンコクに事務所を置く。

##### 【概要及び設立の経緯】

1959年、国際連合教育科学文化機関(UNESCO)と国際大学協会 (IAU) <sup>17</sup>、によって設立された

<sup>15</sup> SEAMEO RIHED ウェブサイト<<https://rihed.seameo.org/>> (2020年1月22日アクセス)

<sup>16</sup> 1965年設立。東南アジア地域の教育、科学、文化における協力を促進するための政府間組織。

<sup>17</sup> NGO(非政府組織)。1950年、世界全域にわたる教育の発展と、そのための高等教育研究機関相互の組織的な協力の発展を目的として UNESCO の下に設置された国際コンソーシアム組織。

研究機関、高等教育開発地域研究所(The Regional Institute of Higher Education and Development)を前身とする。1993年に SEAMEO の地域センターとして再編成・設立された。

東南アジア地域の高等教育の発展と調和を促進するための、ダイナミックで戦略的かつ政策研究主導の地域センターとして、高等教育における国を越えた調和と調整に資することを目的とする。

#### 【参加国・参加機関】

SEAMEO の加盟国である ASEAN10 カ国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア）及び東ティモールの 11 カ国

#### 【主な活動】

東南アジア地域の高等教育の発展・活性化を支援するため、以下のような活動を実施している。

- ・各国の政策立案者および高等教育指導者に政策プラットフォーム形成の機会の提供  
高等教育関係政府機関の上級職員会議(The Southeast Asian Higher Education Senior Officials Meeting: SEA-HiEd SOM)や、高等教育機関長のフォーラム(The Southeast Asian Higher Education Leaders Forum: SEA-HiEd Forum)等の開催。
- ・域内の学術流動性を高める多国間プラットフォームの開発  
学生向けの国際交流プログラムである、AIMS プログラム(ASEAN International Mobility for Student Programme)の実施（第 1 項にて後述）、大メコン圏大学コンソーシアム(The Project on Support for Capacity Building of the GMS University Consortium)（第 2 項にて後述）の組織等。
- ・域内および域外の多国協力の促進  
ASEAN 中国センター(ASEAN China Centre: ACC)、日 ASEAN 統合基金(Japan-ASEAN Integration Found: JAIF)、EU、ドイツ学術交流会(German Academic Exchange Service: DAAD)等との連携。

### 3-1-1. AIMS プログラム (ASEAN International Mobility for Student Programme)<sup>18</sup>

#### 【組織】

SEAMEO RIHED が実施する、政府主導の学部生向け国際交流プログラム。

---

<sup>18</sup> SEAMEO RIHED ウェブサイトの AIMS プログラムページ <<https://rihed.seameo.org/programmes/aims/>> (2020 年 1 月 22 日アクセス)

### 【概要及び設立の経緯】

加盟国間での学生交流の促進を目的とする。2010年に開始されたマレーシア、インドネシア、タイの3カ国によるM-I-Tプログラム(Malaysia-Indonesia-Thailand Student Mobility Programme)を前身とする。

参加機関は加盟各国の政府が決定しており、日本では「平成25年度大学の世界展開力強化事業」を通じて募集・選定が行われた。

これまでにAIMSプログラムを利用した学生は5,000人以上に上る。なお、AIMSでは単位互換制度としてUMAPが開発したUCTS(UMAP単位互換方式)<sup>19</sup>を採用している。

### 【参加国・参加機関】

マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本<sup>20</sup>、韓国、シンガポール、カンボジアの10カ国77機関が参加。タイの参加機関はチュラロンコン大学、カセサート大学、マヒドン大学、メーファールアン大学、プリンスオブソンクララー大学、タマサート大学、キングモンクットトンブリ工科大学、チェンマイ大学の8機関。

### 【主な活動】

各国政府の支援のもと1学期間(最長2学期)の交流プログラムを実施する。参加大学は、各自強みのある学問分野のプログラムを提供し、加盟国間で学生の派遣数と受入数のバランスをとりつつ学生交流を行う。

## 3-1-2. 大メコン圏大学コンソーシアム(The Project on Support for Capacity Building of the GMS University Consortium)<sup>21</sup>

### 【組織】

メコン川流域のカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、及びタイ、中国(特に雲南省、広西チワン族自治区)の大メコン圏(Greater Mekong Sub-region: GMS)の加盟大学からなるコンソーシアム。

### 【概要及び設立の経緯】

2015年7月にラオスのビエンチャンで加盟大学の学長等により共同宣言が採択されて設立。GMS地域のコミュニティ、連結性、競争力を向上するため、人材育成の必要性を認識しながら、大学の質・卓越を促進するメカニズムの構築を模索することを目的とする。加盟大学は各国政府の教育省によって選出された。

<sup>19</sup> 第3章第2節参照

<sup>20</sup> 日本の参加機関は北海道大学、東京大学、酪農学園大学、筑波大学、東京農工大学、茨城大学、首都大学東京、広島大学、上智大学、早稲田大学、立命館大学の11機関

<sup>21</sup> 小嶋緑「SEAMEO RIHEDによる大メコン圏大学コンソーシアム能力向上支援プロジェクト」留学支援, Vol.19, 2018



#### 【参加国・参加機関】

カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、及びタイ、中国(特に雲南省、広西チワン族自治区)の GMS 諸国、22 大学が加盟。タイの加盟大学はチェンライラジャパット大学、スアン・スナンダ・ラジャパット大学、キングモンクットトンブリ工科大学、タマサート大学、カセサート大学、メーファールアン大学の 6 大学。

#### 【主な活動】

2018 年から 2 年間、日・ASEAN 統合基金の支援を受け、大メコン圏の高等教育の調和を促進するための能力向上支援プロジェクトが実施された。期間中、各加盟大学にて能力強化ワークショップ等が開催された。この活動の中には、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムとタイを対象に単位互換に特化したワークショップの開催などを通じて、単位互換制度や共通の単位互換フレームワークの構築を目指す、「アジア学術単位互換枠組み(Academic Credit Transfer Framework for Asia)」の取り組みなどが含まれる。

### 3-2. アジア太平洋大学交流機構 (University Mobility in Asia and the Pacific: UMAP) <sup>22</sup>

#### 【組織】

高等教育分野における政府、又は非政府の代表からなる任意団体。

#### 【概要および設立の経緯】

アジア太平洋地域における高等教育機関間の学生・教職員の交流促進を目的として、1991 年に発足。1998 年バンコクで開催された第 6 回総会において、UMAP 憲章(UMAP Constitution)が採択された。そこでは UMAP の目的は、「アジア太平洋地域内の高等教育機関間の協力を推進するとともに、学生と教職員の交流を増やし、高等教育の質を高めることによって、域内諸国・諸地域の文化・経済・社会制度の理解をさらに深めること」として、以下の 3 つの目標を定めている。

- ・ 大学間交流促進の阻害要因を特定し、それを解決すること。
- ・ 参加国・地域における二大学間、多大学間及びコンソーシアムによる交流を促進すること。
- ・ 単位認定及び互換のためのシステムを開発し、整備すること。

#### 【参加国・参加機関】

アジア太平洋地域の 36 カ国・地域が参加しており、そのうち日本 <sup>23</sup>を含めた 21 カ国・地域が正会員となっている。UMAP 国際事務局に拠出金を支払った国は、正会員国として UMAP 国際理

<sup>22</sup> UMAP ウェブサイト<<http://umap.org/>> (2020 年 1 月 22 日アクセス)

<sup>23</sup> 日本からは 117 機関が参加している。また、UMAP 日本国内委員会は国立大学協会、公立大学協会、日本私立大学団体連合会、文部科学省、日本学生支援機構によって構成されており、事務局は日本学生支援機構内に置かれている。

(国立大学協会ウェブサイト「UMAP 国内委員会」<<https://www.janu.jp/international/umap-nihon.html>> (2020 年 2 月 4 日アクセス)

事を構成する。現在の国際事務局は日本の東洋大学内に設置されている。

参加機関は 674 機関あり、タイからは OHEC 管轄下の 156 機関<sup>24</sup>全てとバンコク都により設立された Navamindradhiraj University が参加している

#### 【主な活動】

上述の目標のもと、以下のようなプログラムの実施、及び取り組みをおこなっている。

- 交換留学プログラム

参加機関がそれぞれ送り出しあるいは受け入れ機関となる交換留学プログラム。

- サマープログラム

毎年メンバー国の一つが提供する独自の夏季特別プログラム、UMAP サマープログラム、

- UMAP 研究ネット(UMAP Research Net-URN)

共通の研究テーマを有する 2 人以上の UMAP 参加大学研究グループによる研究ネットワーク構築を通じ、大学教員、研究者、学生の流動性を促進するプログラム

- UCTS(UMAP 単位互換方式)の普及

UCTS は、欧州諸国の学生交流事業(ERASMUS: European Region Action Scheme for the Mobility of University Students)における欧州単位互換制度(ECTS: European Credit Transfer System)をモデルにしたもので、1999 年より UMAP 事業の下、アジア太平洋諸国間の学生交流を促進するために奨励してきた単位互換のための換算方式。アジア太平洋諸国間の学生交流事業を発展させ、単位・成績の互換を促進することを目的に開発された。

### 3-3. ASEAN 大学連合 (ASEAN University Network: AUN)<sup>25</sup>

#### 【組織】

ASEAN 諸国の主要大学から成る大学連合。

#### 【概要および設立の経緯】

1992 年の第 4 回 ASEAN サミットで地域統合における高等教育の果たす役割の重要性が確認され、1995 年、ASEAN 加盟国高等教育担当大臣の憲章署名により AUN が設立された。ASEAN 各国から選出された 10 の代表大学を中心に組織された理事会が政策決定を行い、事務局が各プログラムや活動の計画、編成、調整、監視、および評価を行う。事務局はチュラロンコン大学内に設置されている。

#### 【参加国・参加機関】

ASEAN 加盟 10 カ国の 30 大学が参加している。タイの参加大学はチュラロンコン大学、ブラパ大学、マヒドン大学、チェンマイ大学、プリンスオブソンクラー大学の 5 大学。

<sup>24</sup> 脚注 4, 5 参照

<sup>25</sup> AUN ウェブサイト<<http://www.aunsec.org/index.php>> (2020 年 1 月 22 日アクセス)

### 【主な活動】

以下の目標のもと、学生交流や研究者交流等のイベントやプログラムを実施している。

- ・ ASEAN 及び域外の大学間の既存の協力ネットワークを強化すること。
- ・ ASEAN が特定した優先分野での共同学習、研究、教育プログラムを促進すること。
- ・ ASEAN 加盟国の学生、教員、研究者間の協力と連帯を促進すること。
- ・ ASEAN 地域の高等教育の政策指向組織としての役割を果たすこと。

例えば、域内の高等教育の質の向上のための機関別アセスメント「ASEAN 大学ネットワーク質保証(AUN-QA)」プログラムや、加盟大学間の学術交流を促進するための単位互換制度（ASEAN Credit Transfer System: ACTS）の開発等を実施している。

また目標にもあるように ASEAN 域内のみでなく、その他の地域との連携も積極的に行っており、ASEAN 諸国と東アジア(日本、中国、韓国)の大学間の連携強化、単位移転の促進を目的に ASEAN+3 UNet (ASEAN+3) ネットワークを形成している。

## 3-4. 環太平洋大学協会 (Association of Pacific Rim Universities: APRU)<sup>26</sup>

### 【組織】

南北アメリカ、アジア、オーストラリアを結ぶ主要研究大学による協会。

### 【概要および設立の経緯】

アジア太平洋経済協力(APEC)の形成を受け、1997 年、ロサンゼルスにおいて、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア工科大学、南カリフォルニア大学の学長により設立された。自然災害リスクの低減、女性のリーダーシップ育成、高齢化社会、地球温暖化、都市開発、といった当該地域および世界的な課題の解決に教育・研究の分野から貢献することを目的とする。国際事務局は香港科技大学に置かれている。

### 【参加国・参加機関】

オーストラリア、カナダ、チリ、中国および香港、台湾、エクアドル、インドネシア、日本<sup>27</sup>、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、フィリピン、ロシア、シンガポール、タイ、アメリカ合衆国の 18 カ国・地域の研究大学計 51 機関が参加。タイの参加大学はチュラロンコン大学。

### 【主な活動】

<sup>26</sup> APRU ウェブサイト<<https://apru.org/>> (2020 年 1 月 22 日アクセス)

<sup>27</sup> 日本の参加機関は慶應義塾大学、名古屋大学、大阪大学、東北大学、早稲田大学の 5 機関。

地域に共通する課題解決を目指し、ワークショップや国際会議の開催など様々なプログラムを実施している。

### 3-5. シルクロード大学連盟 (University Alliance of the Silk Road: UASR)<sup>28</sup>

#### 【組織】

中国政府が推進するシルクロード経済ベルト<sup>29</sup>沿線の国・地域の大学<sup>30</sup>から成る、非政府・非営利の大学連盟。

#### 【概要および設立の経緯】

西安交通大学の主導により 2015 年に発足。“平和と友情、開放性と包摂性、相互理解と相互恵与”というシルクロードの精神に基づき、高等教育の開放性と国際協力を目的とする。

加盟大学は自主的に加盟申請を行う。加盟申請を行うと、オブザーバーとして様々なイベントに参加する権利が得られる。その後、加盟大学から選出されたメンバーによる **Executive Council Meeting** に諮られ、**Executive Council** メンバーの 3 分の 2 以上の賛成により加盟が承認される。事務局は西安交通大学内にあり、必要経費も同大学から拠出される。

#### 【参加国・参加機関】

中国、香港、台湾、韓国、日本<sup>31</sup>、マカオ、タイ、マレーシア、カンボジア、スリランカ、インド、トルコ、ヨルダン、カザフスタン、エジプト、イスラエル、キルギス、パキスタン、タジキスタン、ウズベキスタン、ロシア、フィンランド、イギリス、フランス、ベルギー、ドイツ、イタリア、ポーランド、ルーマニア、ラトビア、セルビア、クロアチア、ウクライナ、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、アメリカ合衆国の 37 カ国・地域の 151 大学が加盟している。タイの加盟大学はメーファールアン大学。

#### 【主な活動】

法医学、エネルギー、航空宇宙工学、法学といった分野別の下位連盟や円卓会議を組織し、国際会議や共同研究を実施している。

---

<sup>28</sup> UASR ウェブサイト<<http://uasr.xjtu.edu.cn/>> (2020 年 1 月 13 日アクセス)

<sup>29</sup> 中国から欧州までを結ぶ陸路の輸送回廊を通じた経済圏(一帯)。「21 世紀海上のシルクロード」構想(一路)を合わせて「一帯一路」構想と呼ばれる。

<sup>30</sup> 中国網日本語版(チャイナネット)「シルクロード大学連盟、実り豊かな成果を収める」2017 年 3 月 31 日、<[http://japanese.china.org.cn/business/txt/2017-03/31/content\\_40536922.htm](http://japanese.china.org.cn/business/txt/2017-03/31/content_40536922.htm)> (2020 年 1 月 13 日アクセス)

<sup>31</sup> 日本の加盟大学は愛媛大学。また、和歌山大学がオブザーバーとなっている。

### 3-6. アジア大学連盟<sup>32</sup>(Asian Universities Alliance: AUA)

#### 【組織】

アジアの大学から成る、非政府・非営利の大学連盟。

#### 【概要及び設立の経緯】

中国の精華大学の提唱により 2017 年に設立。加盟大学からそれぞれ選出された理事によって構成される理事会が組織を管理する。事務局は恒久的に精華大学が担うことになっており、資金調達及び予算管理も同大学が行う。

メンバー機関間同士の協力を強化し、高等教育と経済、科学技術開発に関する地域及び世界的課題に共同で取り組むことを目的に掲げ、下記の 3 つを活動指針とする。

- ・将来を担う優秀な人材育成のため、メンバー機関の教育資源へのアクセス性向上
- ・産学官の革新的な連携システムの基盤としての機能
- ・メンバー機関間の連携をより強め、新たな結びつきを促進し、特に教育研究における交流強化と多文化的学習環境の醸成

#### 【参加国・参加機関】

中国、香港、韓国、日本<sup>33</sup>、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ミャンマー、インド、スリランカ、カザフスタン、アラブ首長国連邦、サウジアラビアの 14 カ国・地域の 15 大学が加盟。タイの加盟大学はチュラロンコン大学。

#### 【主な活動】

地域課題の解決、能力開発、文化学術交流の促進を目的とした加盟大学の学生向け短期プログラム、「AUA ユースフォーラム」といった海外留学プログラムや芸術スポーツイベント等の学生交流プログラムを実施している。

## 4. メーファールアン大学へのインタビュー

第 3 章で概観した国際的な高等教育ネットワークは個別の大学の国際化にとってどのような意味を持っているのだろうか。ここでは、タイの自治国立大学の一つであるメーファールアン大学の国際関係担当副学長・Dr. Nantana Gajaseni に行った、大学の国際化及び AIMS、GMS-UC 等との関係についてのインタビューを掲載する。

---

<sup>32</sup> AUA ウェブサイト<<http://www.asianuniversities.org/>> (2020 年 1 月 13 日アクセス)

<sup>33</sup> 日本の加盟大学は東京大学。

## 4-1. メーファールアン大学<sup>34</sup>の概要

メーファールアン大学は1998年に設立された自治国立大学である。タイ北部、ミャンマー、ラオスと国境を接するチェンライ県に所在する。

第3章で取り上げたAIMSプログラム、GMS-UCの参加校に選定されているほか、UMAP、UASRにも加盟している。

もともとタイ北部の高等教育のニーズに応えるために設立された経緯を持つ。「公園の中の大学 GMS への玄関口 ASEAN の中心地」というコンセプトのもと、タイのみでなく、大メコン圏全体に質の高い高等教育を提供し、人材育成を行うことをミッションとする。

ほとんどの授業を英語で実施しており、いわゆるインターナショナルプログラムは設けていない。2019年9月に発表されたTimes Higher Education(THE)誌の世界大学ランキングでマヒドン大学とともに601-800位にランクインし、タイの大学としては最高位にランキングされた。特にキャンパスの留学生、外国人教職員数などで評価される国際性の点で高いスコアを獲得してのランキング結果となった。同大学が国際的な大学ランキングでトップになるのは初めてのことである<sup>35</sup>。

その他の概要は以下のとおりである。

### 【学部・研究科】

以下の14学部を擁する。大学の所在地域の特産品であるコーヒーや茶の研究に力を入れており、AIMSでは食料科学技術分野のプログラムを提供している。

農産業学部(School of Agro-Industry)

コスメティック科学部(School of Cosmetic Science)

健康科学部(School of Health Science)

情報技術学部(School of Information Technology)

統合医療学部(School of Integrative Medicine)

法学部(School of Law)

教養学部(School of Liberal Arts)

経営学部(School of Management)

看護学部(School of Nursing)

科学部(School of Science)

アンチエイジング再生医療学部(School of Anti Aging and Regenerative Medicine)

歯学部(School of Dentistry)

医学部(School of Medicine)

中国学部(School of Sinology)

<sup>34</sup> メーファールアン大学ウェブサイト <<https://en.mfu.ac.th/home.html>> (2020年1月22日アクセス)

<sup>35</sup> Bangkok Post, “Mae Fah Luang, Mahidol lead Thai universities in global rankings” 2019年9月13日

### 【学生数】

2019年9月現在の学生数は学部から博士課程まで合わせて14,167人。うち留学生が656人で全体の約4.6%を占める。

### 【大学設備・キャンパス】

広大な敷地に近代的な設備のキャンパスが作られている。キャンパス内の学生寮は6,000人を収容できるキャパシティがある。また、病院や運動施設等も充実している。

## 4-2. インタビュー内容

【実施日】2019年11月11日

【対応者】Dr. Nantana Gajaseni メーファールアン大学国際関係担当副学長

Q: いつからメーファールアン大学副学長を務めていらっしゃるのでしょうか。

A: 2019年5月にメーファールアン大学の現学長の要請を受け、国際関係(Global Relation)担当の副学長に就任しました。それ以前は長くAUNで仕事をしていました。

2009年6月から2017年7月まではAUNの事務局長(executive director)を、その後2019年4月までAUN-QAのチェアパーソンを務めました。

Q: 長らくAUNという国際的な組織の事務局のトップを務められたわけですが、なぜメーファールアン大学からのオファーを承諾されたのでしょうか。

A: メーファールアン大学は非常に若い大学で、国際的な大学を設立するという目的で設立され、ほとんどすべての授業を設立当初から英語で実施しています。このような大学の副学長というポジションは非常にチャレンジングで魅力的であると感じました。

Q: 国際化についてのお考えをお聞かせください。

A: 国際化とは、単に留学生の送り出しや受け入れを指すものではありません。学生だけでなく、研究の国際化も同様に重要であると考えています。メーファールアン大学は教育内容及びカリキュラムが国際的な標準を備える「国際化」を目指しています。

Q: メーファールアン大学はタイ政府に指名されてAIMSとGMS-UCプログラムに参加されていますが、このプログラムへの参加は大学にとってどのような意味がありましたか。また、参加したことで大学自体に何か変化はありましたか。

A: 参加大学として指名されたというのは、名誉なことだと思います。また、AIMSに参加したことで留学生のマネジメント力が向上しました。実際に、メーファールアン大学はSEAMEOの実施するAIMS参加大学を表彰する事業「I-award」を受賞しています。なお、その当時私は審査する側としてこの表彰に携わっていたのですが、自分自身もメーファールアン大学を高く評価しました。

GMS-UC については、活動の期間も短く、評価することは難しいです。副学長就任後にハノイで開催されたアジア学術単位互換枠組みに関する会議に出席しましたが、GMS 内の大学間の格差が大きく、まだまだ単位互換のシステム構築は時期尚早ではないかと感じました。また、専属の事務局組織がないことや、活動の財源が安定していないことも気がかりです。長く AUN に携わった経験から、このような活動には事務局の存在や安定した財源が欠かせません。

Q: メーファールアン大学には大学の国際化及びグローバル化の観点から、重点を置いている地域や国はあるのでしょうか。

A: まだ副学長に就任して日が浅いため、現在検討中というのが答えになります。現在、メーファールアン大学では、他大学等との覚書の見直しを行っています。大学のリソースは限られていますので、まずは既存の覚書にのっとった学生や教職員の交流をとにかく実施してみて、その後、どうすべきかを検討しようとしています。たくさんの覚書を締結することは優先事項ではありません。

## 5. まとめと考察

20 世紀初頭に始まったタイの高等教育機関数は、2008 年には 146 機関を数えるまでとなった。この時点で国内の高等教育進学率も 50% を越え、タイにおける高等教育は大衆化の時代を迎えたと言える。

1990 年以降は高等教育政策の中で国際化が取り上げられるようになり、具体的な取り組みとしてインターナショナルプログラムの導入やアジアからの留学生受け入れの拡大等が提言され始める。実際、留学生の主な受け入れ先となるインターナショナルプログラムは 1993 年には 27 であったが、2017 年には 769 を数えるまでに拡充された。留学生の受入数も 1999 年の 1,882 人から 2011 年には 10 倍以上になる 20,155 人と、中国や近隣アジア諸国からの留学生を中心にその数を急速に増やしている。このようにタイは留学生の受入国として躍進している。

また、タイは複数の国際的高等教育ネットワークに参画している。これらの多くは、社会経済的な連携、例えば ASEAN 共同体 (SEAMEO RIHED 及び AIMS プログラム、GMS-UC、AUN) や APEC (UMAP、APRU) 等を背景に、地域組織や各国政府の連携により誕生し、域内共通の問題や人材育成目標を共有しながら、活動を展開してきた。また、近年は、中国の新たな経済戦略であるシルクロード経済ベルトを背景にしつつも、1 大学の提唱により始まった、政府ではなく高等教育機関の自主的な国際ネットワーク (AUA、UASR) も誕生している。

いずれの組織も参加機関間での学生や教員のモビリティを高めることを目的に、留学プログラムや国際会議等を実施しているが、UMAP や AUN など、単位互換制度の整備を伴う留学プログラムを実施している組織から、数日から数週間の交流を主目的としたプログラムを実施する組織もあり、活動範囲や、参加機関のネットワークへの関わりの深さは異なっている。組織の規模も大



小があり、参加国・地域を代表する研究大学のみから成る AUA では参加機関は 15 機関であるが、UMAP の参加機関は 674 機関に上る。このように国際的ネットワークは、地域のみならず、活動レベルも様々に、多層的に展開している状況が見られる。

次に個々の大学にとっての国際ネットワークへの参加であるが、メーファールアン大学の事例では、AIMS、GMS-UC への参加は個々の大学にとって、ある意味大学の卓越性・国際性が外部から評価されていることを示す、名誉なことであると捉えられていた。更に、参加によって大学内部で留学生のマネジメント力が向上するという、大学の国際化に資する影響があったことがわかった。メーファールアン大学は設立当初から国際化さらに、ASEAN 諸国、特に GMS の人材育成を掲げていたこともあり、このような国際的な取り組みへの参加もある意味、これまでの大学の活動の評価の表れであり、大学の国際化の取り組みや戦略そのものに変化を及ぼすまでの影響力は、現時点ではないように見受けられた。影響力の大きさは各大学における国際化の状況や比重の大きさによって異なることが予想される。

UMAP には 2019 年に米国、2020 年にはオーストラリアが参加国として加わった。また、AIMS プログラムには、2019 年にシンガポール、カンボジアが加わり、ネットワークがますます拡大している。高等教育のグローバル化が進み、自国内のみでなく、国際的な競争に身を置く各高等教育機関は、国内の国際化政策のみでなく、国際ネットワークの動向にも注目しながら自身の国際化及びグローバル化対応を進めていく必要があるのではないだろうか。

## 謝辞

本報告書作成に当たり、ご多忙にもかかわらず快くインタビューに応じてくださったメーファールアン大学の Dr. Nantana Gajaseni にこの場を借りてお礼申し上げます。

また、2 年間に渡りご指導いただいた JSPS 東京本部のみなさまとバンコク研究連絡センターの皆さまおよび長期間に渡る研修に快く送り出してくださり、貴重な機会を与えてくださった三重大学の皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

## 参考文献・ウェブサイト（引用順）

- ・杉村美紀「アジア高等教育圏のダイナミクス」リクルートカレッジマネジメント, 204号 May-Jun, 2017
- ・堀田泰司, ACTS (ASEAN Credit Transfer System) と各国の単位互換に関する調査研究「第3節 タイ 2.単位制度に関する規定の概要」 <[http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/30347/20141016174357806944/ACTS\\_2-3\\_103\\_Thailand.pdf](http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/30347/20141016174357806944/ACTS_2-3_103_Thailand.pdf)> (2020年2月1日アクセス)
- ・タイ高等教育委員会事務局 (Office of the Higher Education Commission : OHEC) 「List of Accredited Thai Higher Education Institutions (As of February 2019)」 <[http://inter2.mua.go.th/documents/Thai\\_HEIs.pdf](http://inter2.mua.go.th/documents/Thai_HEIs.pdf)> (2020年1月31日アクセス)
- ・鈴木康郎、カンピラパーブ・スネート「高等教育のマス化と ASEAN 統合に向けた国際的地位の向上を目指して タイの高等教育政策」リクルートカレッジマネジメント, 164号 Sep-Oct, 2010
- ・独立行政法人大学改革支援学位授与機構「タイ高等教育の質保証 ブリーフィング資料 (2019年3月 NIAD-QE 評価事業部国際課作成)」 <[https://www.niad.ac.jp/media/008/201904/2019%20BriefingonThailandQAinHE\(JP\)-7415e9d45246d229c7368eb8321df1b8.pdf](https://www.niad.ac.jp/media/008/201904/2019%20BriefingonThailandQAinHE(JP)-7415e9d45246d229c7368eb8321df1b8.pdf)> (2020年1月23日アクセス)
- ・村田翼夫「高等教育改革の比較研究-法人化・民営化を中心として-タイにおける国立大学法人化の動向と問題点」比較教育学研究大 30号, 2004
- ・森康真「タイ国・高等教育機関における「国際プログラム」の概況」国際研究論叢 28(1), 2014
- ・OHEC "Education in Thailand 2018", OEC Publication No. 25/2019 ISBN 978-616-270-201-3, 2018
- ・轟裕美「タイの大学のインターナショナルプログラム-非英語圏におけるインターナショナルプログラムの課題と展望-」JSPS バンコク研究連絡センター, 2015
- ・Internationalization of higher education and student mobility in Japan and Asia, 2018, P.23, Table11
- ・SEAMEO RIHED ウェブサイト : <https://rihed.seameo.org/> (2020年1月22日アクセス)
- ・小嶋緑「SEAMEO RIHED による大メコン圏大学コンソーシアム能力向上支援プロジェクト」留学支援, Vol.19, 2018
- ・UMAP ウェブサイト <<http://umap.org/>> (2020年1月22日アクセス)
- ・AUN ウェブサイト<<http://www.aunsec.org/index.php>> (2020年1月22日アクセス)
- ・APRU ウェブサイト<<https://apru.org/>> (2020年1月22日アクセス)
- ・UASR ウェブサイト<<http://uasr.xjtu.edu.cn/>> (2020年1月13日アクセス)
- ・中国網日本語版(チャイナネット) ” シルクロード大学連盟、実り豊かな成果を収める” 2017年3月31日, <[http://japanese.china.org.cn/business/txt/2017-03/31/content\\_40536922.htm](http://japanese.china.org.cn/business/txt/2017-03/31/content_40536922.htm)> (2020年1月13日アクセス)
- ・AUA ウェブサイト<<http://www.asianuniversities.org/>> (2020年1月13日アクセス)
- ・メーファールアン大学ウェブサイト<<https://en.mfu.ac.th/home.html>> (2020年1月22日アクセス)
- ・Bangkok Post, “Mae Fah Luang, Mahidol lead Thai universities in global rankings” 2019年9月13日